

平成20年度 男女共同参画推進月間講演会

「仕事もプライベートも楽しむ～ワタシ流時間活用術～」

日時 平成20年6月29日(日) 13:30～15:30

会場 大会議室



講師 白石真澄(関西大学政策創造学部教授)

(株)西武百貨店、(株)ニッセイ基礎研究所主任研究員を経て2002年東洋大学経済学部社会システム学科助教に就任。2006年に同教授に就任。2007年関西大学政策創造学部教授に就任。規制改革会議委員(内閣府)、男女共同参画推進連携会議委員(同)、過疎問題懇談会委員(総務省)などの公職を務める。

著書には、「バリアフリーのまちづくり」、「福祉の仕事」、「保育園ママのおたすけガイド」等。



◇責任は両性の肩に

男女共同参画というのは、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受けることができ、かつ共に責任を担うべき社会を言います。

女性も男性も社会の対等な構成員なわけですが。どっちが偉い、どっちが優れているということではなく、同じように能力を持っているわけです。

「男性に育児をさせるんだったら、男性は仕事を一生懸命してきているわけです。女性も共に経済的責任を担う必要がありますよね」と、私は答えた記憶があります。これは何も企業に出て働けというのではなくて、いろんな役割観があつていいと思うんです。地域のなかでのボランティア活動というのも1つですし、民生委員や児童主任委員とかいろんな役割があります。

男性は職場のなかで経済的責任を担い、かつ家庭責任も担えと言うのであれば、女性も何らかの社会的な責任を担う必要があると私は思います。きちんと男女共同参画というのは、共に責任を担うべき社会ということが謳われているということです。

◇変化する意識

男女共同参画がなぜ大事なのかということ、少しお話ししたいと思います。

1つ目は、やっぱり考え方が大きく変わっているということです。かつて「男子厨房に入るべからず」とかいう言葉があり、「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」というようなことに賛成というのは、7割近くだったんですけど、今はもう5割を割り込んでいます。でも、まだ男性の方は5割くらいです。女性の方は「そんなのちょっとおかしいでしょ」というような人の方が多くなってきました。やはり伝統的な価値観にあまり賛成じゃないという人は増えているということです。学生に聞いても、男子に「奥さん、結婚しても働いてもらう？」と聞きますと、もう9割9分ぐらいが「はい」と手が挙がるんです。なぜと聞いたら「楽だから」と言うんです。「“チャッチャツ”と家事もやって、2人で働いたら旅行にも行ける」と、現実的だなと思います。

女子に聞くともっと面白いんです。「何で？」と聞くと「先生、愛は3年続くかどうか分からない」。やはり今、人生の危機というものを若い人たちもちゃんと分かっているんじゃないかと思います。一生2人で健康でいられる保証もありませんし、夫がいる職場や仕事が統廃合されるという可能性もありますし、一寸先はどうなるか分からないということを若い人たちが分かっているわけです。

◇ワーク・ライフ・バランスは老若男女に不可欠

私は、男女共同参画のために、できる限り社会のお役に立ちたいということを考えています。地域としての顔を持ちたいと思っています。働いているだけの自分では駄目です。そして、家庭の中での一員だけでは駄目です。これから社会のための問題解決を、働いている人も、家で家事責任を担っている人もやっていく必要があると思います。

そのために、まずは企業が頑張ってワーク・ライフ・バランス、仕事と家庭のバランスを取るようになる必要があります。これは行政と企業と一緒に取り組まなければなりません。

もう1つは、女性の就業・起業支援。もっと女性が第2のチャレンジができるように、社会としても支援をしていかなければいけない。

働きたいけれど、子どもを預ける場所がない。こういう声もよく聞きます。まだまだ社会のサービスが足りません。人間関係が疎遠になりつつある時に、行政はすべてをしてくれません。ご近所の底力なら、できます。地域で関係を作っていく。そういうことに女性は長けているのではないかと思います。全国でいろんな団体があるんですが、そ

ういう団体と手を組んでこれから組織がそこにあるというのではなく、社会の課題を解決するための行動をしていただかないといけないと思います。

最後に政治の場、社会の重要な位置を占める女性をもっと増やしていかなければいけない。家庭の中から、企業の中から、地域の中から、運動していくことが必要ではないかと思います。

このワーク・ライフ・バランスというのは、「女の人のために」と考えられることがありますが、実はそうではなくて、すべての年代、女性にも男性にも必要なことなんです。みんなのワーク・ライフ・バランスを考えていく。みんなが自分の能力を活かしたい。こんな時代だから人間も考え方を換え、生活を変えていくことが必要です。変化に富む時代、いろいろな人たちが社会にいる、地域にいるということが強い社会です。是非、こうしたことを皆さんと共に取り組んでいきたいなと考えています。